

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年十一月度 入選句（投稿総数三千四百二十一句・小中学投句数二千五百九十九句）

### 特選

選者 高木 佐知子

記念じゆのぼくのもみじが赤色に 大垣市

関谷 泉吹(小五)

秋が深まりもみじの葉が赤く色づく光景はよく見られますが、そのもみじが自分にとつての記念樹だと言いきっているところに、作者の格別な思いをくみ取ることができます。

何かに力一杯打ちこんでいる作者が輝いている姿も伝わってきます。「ぼくのもみじが」という中七が、俳句に元氣と力強さを加えています。

あきの日に父と歩いたじょう下町

養老郡養老町 星田 光奏(小二)

秋晴れの一日をお父さんと楽しく過ごした喜びが伝わってきます。笑顔で会話をしながら、ゆつくりした足取りで、城下町の街並を一つ一つ味わいながら歩を進める父と子。何ともいえず温かい景が浮んできます。うれしかったのはお父さんも同じでしょう。「あきの日」の季語がやさしさも表しています。

障子貼る祖母の背中がかわいくて

美濃加茂市 亀井 萌花(中三)

そろそろ冬仕度を始める季節になります。障子の貼り替えもその一つとして、家族の中で大切にされてきたのでしょう。家族のために障子を貼る祖母の丸い背中にありがたうと手を合わせる作者の姿が浮かびます。祖母との思い出もたくさんあるのでしようね。「祖母の背中が」という中七が、俳句に拡がりをもたせています。

### 秀逸

鉛筆をけずりけずって月を見る

大垣市 後藤 伶生(中二)

ぼしろうぞうさくらもみじをかさにする

大垣市 伊藤 穂乃花(小六)

ぼしろうの葉秋の空までとどくかな

大垣市 三島 愛結(小六)

秋の空太陽照らす箱かんぼん

大垣市 齋藤 優衣(小五)

道まよいすすきがあつちと道案内

大垣市 炭竈 凜奈(小四)

まどの下子供バケツが雪を待つ

大垣市 森本 彩乃(小四)

リコーダー秋の夕日にひびかせて

大垣市 山田 優杏(小四)

かかしさんおこめをまもるおさむらい

大垣市 あべ えみゆ(小二)

おじぎするところやさしいなほかな

大垣市 香田 瑛介(小五)

天高し玉入れの玉飛ぶ観声

大垣市 水谷 斗夢(小六)

入選

そらみあげとんぼみつけるかえりみち	大垣市	宮田	大馳(小一)
もみじの葉まつ赤なドレスにきがえてる	大垣市	すぎうら	ひなた(小三)
ささの葉も舟もゆらすよ秋の風	大垣市	石黒	巧晟(小四)
鼻つまみ落ちたぎんなんとびこえる	大垣市	小久保	友愛(小四)
運動会負けて見上げたくもり空	大垣市	福井	花菜(小六)
流れ星私のまえにおちてこい	大垣市	北嶋	真千(中一)
焼き芋を君と一緒に半分こ	美濃加茂市	藤吉	優奈(中二)
ただいまとドアを開けたらさんまの香	美濃加茂市	間宮	莉子(中三)
声援が響く空には罫雲	美濃加茂市	山田	昇吾(中三)
芭蕉さんいつまで紅葉ながめてる	大垣市	土屋	勇人(小六)

入選

あかとんぼたんぼのうえをひこう中	大垣市	澤井	捺芽(小一)
妹がころんで出てきたさつまいも	大垣市	牛田	温斗(小四)
おにごっこもみじいっしょにおいかけた	大垣市	佐藤	新大(小二)
すべり台どんぐり早くておいつけない	大垣市	かわ村れん	太ろう(小二)
ねがいごとと三ど言えるかながれ星	大垣市	とみおか	あかね(小二)
かあさんのかえりをまつよあかとんぼ	大垣市	こじま	たける(小二)
食べる時くりの笑顔が見えてくる	大垣市	富田	美咲(小五)
きんもくせいかぜでにおいでわかるんだ	大垣市	高林	優菜(小五)
衣変え短くなつたそで直す	大垣市	早川	莉里(小六)
池うつるさかさ紅葉にちる葉っぱ	大垣市	山木田	陽翔(小六)

選者吟

ようこそと迎ふ案山子の細き腕

佐知子